



# 中央区のまちづくりの方向性



九州屈指の商業集積地である天神地区を擁し、都心部などではマンション供給も活発に行われるなど、商業・業務施設と住宅が近接した都市型住宅地が形成されています。

中央区では、福岡市の成長の活力源として、都心部を中心に人が集い、活気あふれる都市機能の充実・強化を図るとともに、都心部への近接性・利便性を生かし、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざします。

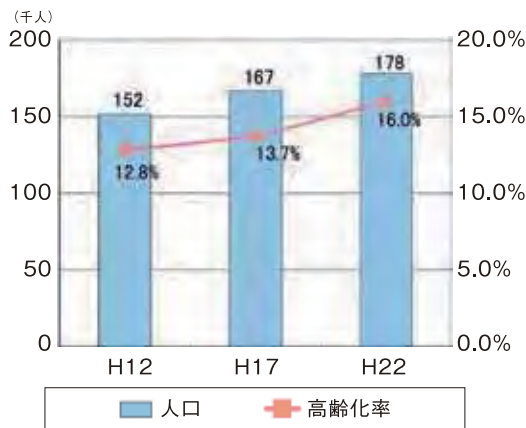


▲天神



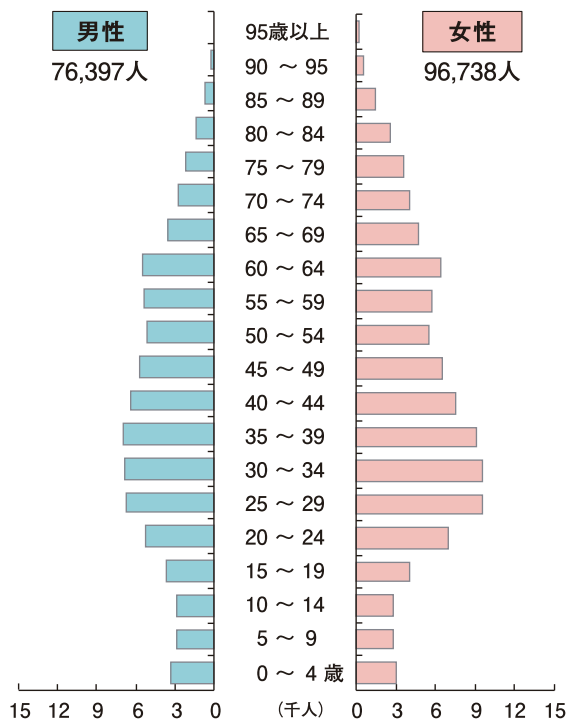
▲大濠公園

■中央区 人口と高齢化率の推移(国勢調査)



	平成12年	平成17年	平成22年
人口	151,602	167,100	178,429
増減率	8.6%	10.2%	6.8%
15歳未満	16,380	17,043	17,562
割合	10.8%	10.2%	10.1%
15~64歳	115,013	122,962	127,849
割合	75.9%	73.6%	73.8%
65歳以上	19,478	22,974	27,724
割合	12.8%	13.7%	16.0%

■中央区 5歳階級別人口



資料:平成22年国勢調査(注)年齢不詳を除く

## 《まちづくりの方向性》

### 交流

○天神では、建物の建替え時期を捉え、地域の住民や企業と行政が共働でまちづくりに取り組みながら、福岡市の顔であり活力の源となる潤いと活気に満ちあふれた拠点づくりを進めます。

### 活力

○舞鶴公園や大濠公園、赤煉瓦文化館などの自然や歴史的資産を核とし、その周辺を含めて緑と歴史が調和した景観の保全・創出を図ります。

### 活用

○臨海部では、海からの景観に配慮しながら、港湾機能の再編などによる高度な港湾空間づくりや、市民に親しまれ、都心機能を補完するウォーターフロントづくりを進めます。

### 快適

○大名や今泉、西中洲、春吉などでは、それぞれの地区の個性を生かしたまちづくりを進め、天神と連携した都心部の集客力と回遊性の向上を図ります。

### 環境

○地下鉄七隈線の天神南～博多間の延伸事業や新たな幹線道路の検討、快適な歩行空間や自転車利用環境の形成など、都心部の回遊性向上や交通円滑化に向けた取組みを進めます。

### 安全

○九州大学六本松キャンパス跡地では、新たな魅力とにぎわいを創出する拠点づくりと跡地周辺における交通結節機能の強化を進めます。

○住宅地を主とする地区では、住宅と商業施設などが共存する便利で快適な都市型住宅地や低層と中高層が共存する住宅地づくりを進めます。

○天神中央公園などの周辺のオープンスペースとの連続性を生かした市民が憩える場としての水辺・緑地空間づくりを進めます。

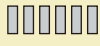

○警固断層周辺では、大規模地震発生時における被害を最小限に抑えるため、中高層建築物の耐震強化を促進します。災害時などの安全を確保するため、那珂川などでは浸水対策を進めるとともに、狭あい道路の多い地区などでは道路環境の改善を図り、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

# 中央区の将来像とまちづくりの視点


全体構想における「将来の都市構造」をもとに、区内の各地域の特性に応じて、拠点・ゾーン・軸に分類し、まちの将来像やまちづくりの視点などについて、以下のとおりに整理します。

## ● 拠点など



拠点・ゾーン・軸	まちの将来像	まちづくりの視点
<b>都心核(天神)</b> 	都心部の中でも特に高度な商業・業務・文化・情報機能が集まる核として、また福岡市を代表する顔となる景観やオープンスペースを備えた交流と潤いのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高い指定容積率の有効活用</li> <li>○高度な都市機能の誘導</li> <li>○高齢者や障がいのある人なども安心して訪れることのできるまちづくりの推進</li> <li>○地上と地下のネットワークの形成</li> <li>○福岡の顔にふさわしい景観・みどりとオープンスペースの確保</li> </ul>
<b>都心拠点(渡辺通)</b> 	新たなビジネス集積と居住地区との調和を図るまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商業・業務機能の充実</li> <li>○魅力ある歩行空間の形成</li> <li>○周辺地区との連携強化</li> </ul>
<b>地域拠点</b> 	交通結節機能や商業・業務機能、法曹機能及び文化・教育、交流機能などが充実し、魅力とにぎわいを創出する地域の拠点となるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商店街などの活性化</li> <li>○地域のシンボルとなる緑豊かな景観の誘導</li> <li>○交通結節機能の強化</li> <li>○地下鉄七隈線を生かしたまちづくり</li> </ul>
<b>生活商業地</b> 	近隣住民が日用品の買い物をする店舗などが集積する便利なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活に対応した商業・サービス機能の強化</li> <li>○安全に歩ける歩行空間の形成</li> </ul>
<b>機能を充実・転換する地区</b>  <b>(舞鶴公園・大濠公園)</b>	緑と歴史・文化が調和した魅力ある空間づくりを行い、集客・交流の拠点となるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福岡市のシンボルとなる拠点づくり</li> <li>○福岡城跡や鴻臚館跡の活用など歴史・集客機能の強化</li> <li>○観光バス乗降場の確保</li> <li>○舞鶴公園と大濠公園の歩行者ネットワークの強化</li> </ul>
<b>地下鉄七隈線駅周辺ゾーン</b> 	駅を中心として利便施設が集まったまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○駅周辺としてふさわしい土地利用の誘導</li> <li>○魅力ある街並みの形成とオープンスペースの確保</li> <li>○周辺地域から駅へのアクセス性の向上</li> </ul>

拠点・ゾーン・軸	まちの将来像	まちづくりの視点
<b>都市軸</b> 	福岡市の骨格となる重要な交通ネットワークを受け持つ道路の沿道に商業・業務・サービス施設や中高層住宅などが連続した沿道の市街地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都市計画道路などの整備状況に応じた土地利用の誘導</li> <li>○沿道の有効利用</li> <li>○連続性のある良好な街並みの形成</li> </ul>
<b>沿道軸</b> 	幹線道路沿道に商業・業務・サービス施設や中高層住宅などが連続した沿道の市街地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後背地などの周辺環境への配慮</li> <li>○交通ネットワークの形成</li> </ul>

## ● 将来のまちづくりを検討するエリア

ゾーン	まちの将来像	まちづくりの視点
<b>跡地活用ゾーン (九州大学 移転跡地)</b> 	交通結節機能や商業・業務機能、法曹機能及び文化・教育、交流機能などが充実し、魅力とにぎわいを創出する地域の拠点となるまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○九州大学に代わる新たな顔づくり</li> <li>○地域のシンボルとなる緑豊かな景観の誘導</li> <li>○交通結節機能の強化</li> <li>○地下鉄七隈線を生かしたまちづくり</li> </ul>

## ● 環境資源などを保全・活用するエリア

ゾーン・軸	まちの将来像	まちづくりの視点
<b>都市の緑活用空間</b> 	都心に近い貴重なオープンスペースで、市民や来街者が自然とふれあえるレクリエーションと憩いの場	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都心に近い憩い空間の充実</li> <li>○憩い空間にふさわしい周辺土地利用の誘導</li> </ul>
<b>河川緑地軸</b> 	那珂川など、地域の散策・憩いの場となるとともに、緑と広がりのある景観が連続したゆとりと潤いのある水辺空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全で快適な都市基盤の整備</li> <li>○河川沿いの緑化などの美しい都市景観の形成</li> <li>○親水性の向上</li> </ul>

## ●土地利用などの現況から市街地を類型化したエリア

ゾーン	現況	まちづくりの視点
<b>都心核周辺ゾーン</b> 	都心機能を補完する業務施設・商業施設と中高層住宅が集積した職住近接の複合型のまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高い指定容積率の有効活用</li> <li>○ファミリー世帯の居住誘導</li> <li>○都心機能の向上</li> <li>○歩行空間の確保</li> <li>○回遊性の向上</li> <li>○緑化の推進</li> <li>○狭小宅地・老朽木造住宅の改善</li> <li>○狭あい道路の改善</li> </ul>
<b>複合市街地ゾーン</b> 	住宅を中心に都心機能を支援する業務施設・商業施設が共存する複合市街地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩行空間の確保</li> <li>○狭あい道路の改善</li> <li>○老朽木造集中地区での延焼防止</li> <li>○低層住宅地の環境保全</li> <li>○職住が調和した複合市街地づくりと良好な街並みの形成</li> </ul>
<b>中高層住宅ゾーン</b> 	大規模な住宅団地などの中層住宅や高層住宅で形成される住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中高層住宅地としての良好な住環境の保全・形成</li> <li>○緑化の推進</li> <li>○大規模団地などの老朽化に対する適切な対応</li> </ul>
<b>低中層住宅ゾーン</b> 	戸建住宅などの低層住宅が大部分を占めるが、一部中層住宅などが立地する住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低中層住宅地としての良好な住環境の保全・形成</li> <li>○緑化の推進</li> <li>○低層住宅と中層住宅の調和</li> <li>○狭あい道路の改善</li> </ul>
<b>低層住宅ゾーン</b> 	戸建住宅などの低層住宅を主とする住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低層住宅地としての良好な住環境の保全・形成</li> <li>○緑化の推進</li> <li>○老朽化した戸建住宅などの課題への対応</li> <li>○狭あい道路の改善</li> </ul>
<b>緑地・丘陵地</b> 	西公園から油山までつながる豊かな緑	<ul style="list-style-type: none"> <li>○緑地の保全・育成</li> <li>○無秩序な開発の抑制</li> </ul>
<b>港湾機能ゾーン</b> 	海外からの穀物や石油の保管・貯蔵施設が集積するみなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>○港湾機能の強化</li> <li>○東西のアクセスや周辺との接続動線の強化</li> <li>○石油基地の将来的なあり方の検討</li> </ul>



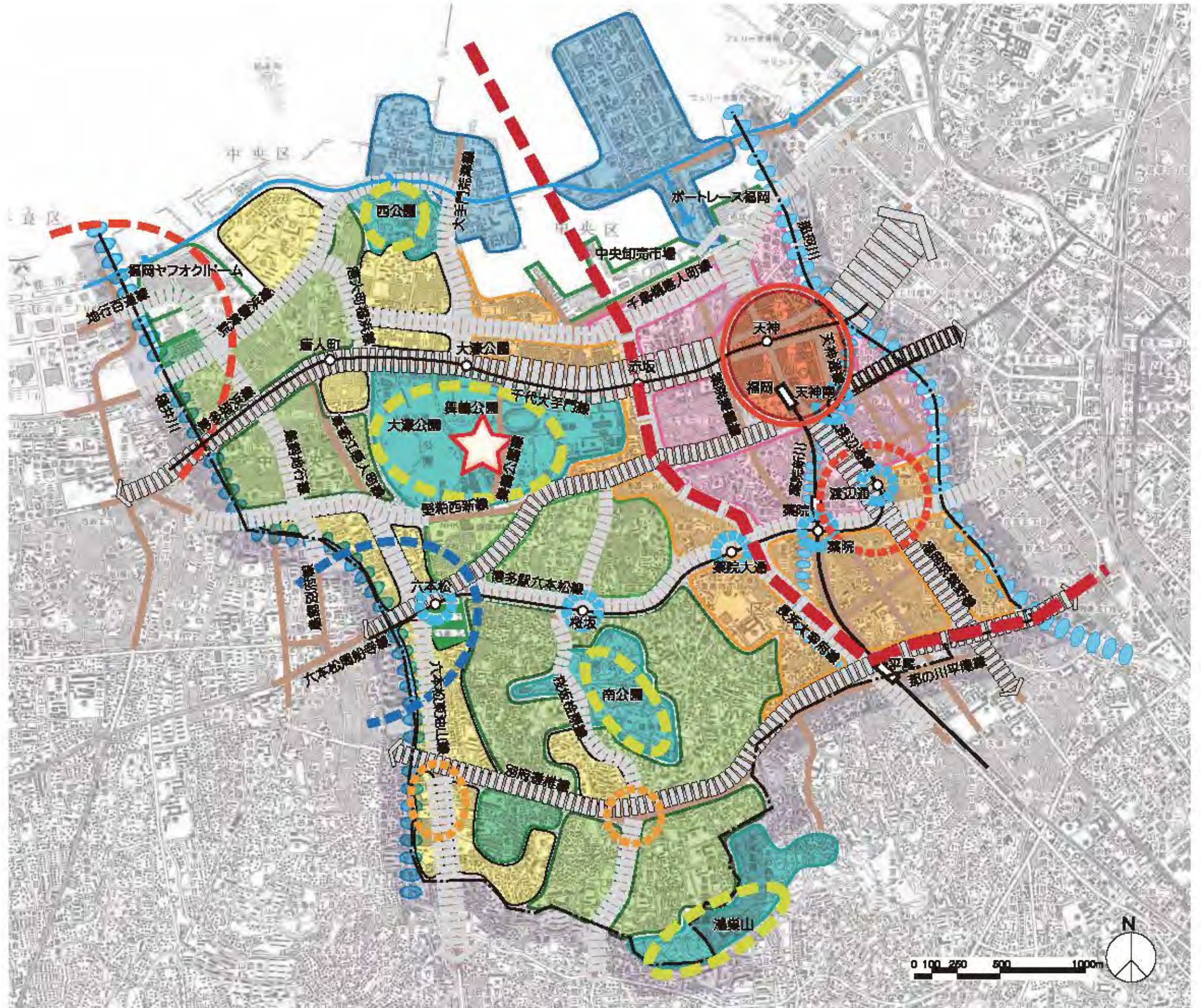


# 中央区の将来像図

※この将来像図は、全体構想における「将来の都市構造」をもとに、区内の各地域の特性に応じて分類した拠点・ゾーン・軸を示した図面です。

【凡例】

- 拠点等 ●
- 都市部
- 都市核 (天神)
- 都市拠点 (福網)
- 地域拠点
- 生活商業地
- ☆ 緑地を充実・転換する地区
- 地下鉄七隈線駅周辺ゾーン
- ▬ 都市軸
- ▬ 沿道軸
- 将来のまちづくりを検討するエリア ●
- ▨ 緑地活用ゾーン (九州大学等緑地)
- 環境資源等を保全活用するエリア ●
- 都市の緑地活用空間
- 河川緑地軸
- 土地利用等の現況から市街地を類型化したエリア ●
- ▨ 都市部周辺ゾーン
- ▨ 複合市街地ゾーン
- ▨ 中高層住宅ゾーン
- ▨ 低中層住宅ゾーン
- ▨ 低層住宅ゾーン
- ▨ 農地・丘陵地
- ▨ 河海機能ゾーン
- 西部広域拠点
- ▬ 都市計画道路等
- ▬ 自転車専用道路
- ▬ 地下鉄
- ▬ 鉄道
- ▬ 大規模施設
- ▬ 区界





# 中央区《現況・課題》

〔凡例〕

- 都市計画道路等(整備済・構成)
- 都市計画道路等(未整備・整備中)
- 自動車専用道路
- 街区公園
- 主な都市公園
- 主な農地
- 海浜公園
- 特別緑地保全地区、緑地保全林地区
- パスターミナル
- トラックターミナル
- 自転車駐車場(公営)
- 自動車駐車場(都市計画施設)
- 商店街
- ▲ 大規模な店舗(1000㎡以上)
- 小学校
- 小学校区界
- その他の教育施設(中、高、大)
- 公共・文化施設
- 文化財・寺社
- 地区計画区域等
- 土地区画整理事業施行地区
- 狭あい道路分布地区(4m未満の道路が多い地区)
- 築30年以上の木造建築物が多い地区(築30年以上の木造建築物が50%以上)
- 河川・ため池
- 地下鉄
- 鉄道
- 区界

- 中央区は、福岡市の中心部に位置し、なかでも天神周辺は百貨店、銀行などの商業・業務機能が集中し、交通結節機能を備え、博多駅周辺とともに九州の中核拠点として発展しています。近年は、天神の百貨店や大名・今泉の個性的な店舗など多様な店舗が集積するショッピング・グルメゾーンとして注目を集め、国内外からの来街者が多く増えており、にぎわいの創出とともに都心部の回遊性の向上が課題となっています。
- 中央区には、西公園・舞鶴公園・大濠公園・南公園などの大規模公園から鴻巣山まで繋がる一連の緑が豊かな中央緑地帯を形成し、福岡城跡や鴻臚館跡、アクロス福岡などの歴史的資産や芸術・文化施設などとともに、市民の交流・憩いの場としての整備や都市の顔となる風景の創出が進められています。
- 臨海部では、ドームやホテルなどのコンベンション機能の立地や、市民に開かれた鮮魚市場が立地しています。
- 中央区には、南北に福岡都市圏を走る西鉄天神大牟田線、東西に福岡市西部と西南部を走る地下鉄空港線と七隈線が走っています。更に地下鉄七隈線延伸事業(天神南～博多)が進められています。
- 六本松では、九州大学移転跡地において、大学に代わる新たなシンボルづくりとして、まちの魅力向上やにぎわいの創出を目指し、商業・業務・サービス・交流機能と居住機能及び法曹機能を備えたまちづくりが進められています。
- 市民の日常生活の利便性を高める商店街は、渡辺通や福浜、唐人町、笹丘、小笹、平尾などで形成されています。
- 主要な道路は、都心部から南部への主軸となる渡辺通線(渡辺通り)～福岡筑紫野線(日赤通り)や長浜太宰府線(大正通り)、東方向への主軸となる博多経浜線(昭通通り)や堅粕西新線(国体道路)、博多駅六本松線(住吉通り～城南線)、別府香椎線などが走っています。
- 中央区は、戦災復興による土地区画整理事業などにより基盤整備が進められてきましたが、土地区画整理事業施行地区から外れ、古くから市街地が形成されている渡辺通や春吉、西中洲、今泉、高砂、清川、桜坂、谷、輝園、西公園、唐人町、今川、地行などには幅員4m未満の狭あい道路が多い地区が広く分布しています。特に、渡辺通や春吉、高砂、桜坂、谷、西公園、唐人町、今川などは、築30年以上の木造建築も多く立地しているため、災害時の安全性などの面で課題となっています。
- 中央区は、約9割の住民が共同住宅の居住者で、人口の流動も大きいことから、地域コミュニティの形成支援や子育て支援に関する施策の充実が必要となっています。
- 放置自転車については、今後も継続して取組みを進める必要があります。また、自転車の歩道における安全走行が課題となっています。

